

病診連携のススメ

かかりつけ医を持ちましょう

皆さんは、「病診連携」という言葉を聞いたことがありますか。すでに始まっているこの制度。今回は「病診連携」について、市長が加茂医師会長の山田實紘さんに伺いました。



渡辺直由 市長

美濃加茂市における医療体制の現状

全国的に「医師不足」が問題になっています。国内の医師数はそれほど変化がないのに、特定地域や特定診療科での偏りがあるようです。一般に、都市に集中し、地方が医師不足となる「地域による偏在」と小児科や産婦人科など特定の診療科で医師不足となる「診療科における偏在」の2つがあるといわれています。

現在、市内には27の診療所（医院・クリニック）と3つの病院があり、地域的な偏在として医師不足の状況にあるとは思われません。また、小児科は12施設、産婦人科は3施設あり、分娩を扱う産科については、本市の場合1カ所の病院になります。医師数は常勤と非常勤、合わせて7人の体制となっており、特別少ないという状況はありません。

このように、当市だけ考えれば満たされているようですが、周辺自治体の状況が悪化すれば当市に患者が集まり、その影響を受けることになります。この事を踏まえながら、市域ではなく地域として考え「病診連携」を積極的に進めていかなければなりません。決して安心できる状況ではないということです。

市長 ここ数年「病診連携」という言葉を耳にするようになりましたが。



山田 これは、「外来診療は診療所」で、「入院は病院」という区別で、双方が連携して治療に当たることを「病診連携」といいます。

日本では、診療所がほとんどと大きくなり病院になったという経緯があり、本来の診療所の役割と病院の役割が一緒になってきてしまいました。これを引き分けていこうという考え方です。

重病でもないのに病院に行つて長時間待つことは、患者さんにとっても有益なことではないはずです。病院側も患者さんから要望されれば、いろいろな検査をやらざるを得ません。こうした場合は、まずは診療所に行つて診察をしてもらい、その結果、簡

市長 連携をするということが大切だと思いますが。

山田 昔は、「この人は自分の患者だ」と抱え込むこともありましたが、今は一人をいろいろな角度から診ながらグループで対応するという流れに変わっています。

市長 「かかりつけ医」を持つことも大切ですね。

山田 身近に医師がいれば、頭や腹が痛くなった時でも気軽に診てもらえます。「かかりつけ医」となる診療所の医師は、患者さんの体全体を診ていてくれます。ある意味ホームドクターですね。一方、病院の医師は、内科の中でも呼吸器専門とか消化器専門などに分かれます。専門的な部分しか診ないので、複数の原因

市長 専門的な医療が必要な場合はどうすればいいでしょうか。

山田 「かかりつけ医」からの紹介状があれば優先的に、そして、専門医の下、高度な医療機器を用いて徹底的に診断します。

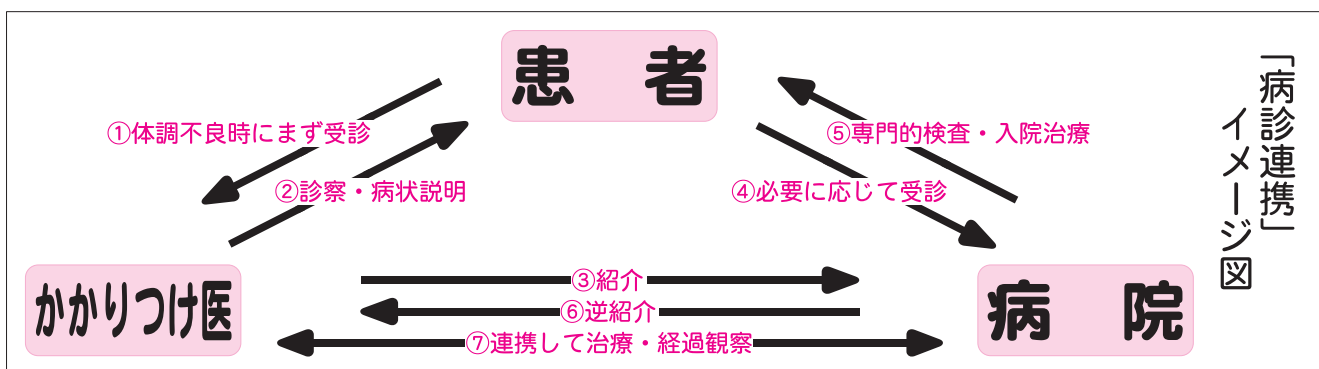
患者さんの立場からすると、診療所に対して病院の紹介を頼みづらい人が多いようですが、遠慮なく申し出てもらつて結構です。それが「病診連携」で、これを拒む医師はいないはずです。これから国の方針として、原則病院には診療所からの紹介状が必要であることになりました。

市長 市内の医療現場の状況はどうですか。

山田 患者さんが今まで以上に集中すると、現体制では対応できなくなり、結局医師不足に陥ってしまう恐れがあります。全国的に問題になっている医師不足について、美濃加茂市でも決して他人事ではないと思っています。だから「病診連携」は重要なのです。患者が増えればもうかると思われがちですが、忙し過ぎると医療事故につながる正しい診療ができなくなる恐れが生じ、デメリットの方が大きくなってきます。

市長 木沢記念病院では9月から土曜日の外来診療を止められたようですが。

山田 軽度な疾患は「かかりつけ医」で十分対応可能です。空いた時間を重症患者に充てるため、そして、診療所と病院がそれぞれの役割を明確にするための一歩進めた措置です。病院は土曜日でも日曜でも休みはありません。救急患者さんと紹介状を持った患者さんについては、土曜日でも日曜日でも診ます。また、病院で検査をして、



加茂医師会長
山田 實紘さん

市長 ありがとうございます。現在、医療現場を取り巻く環境は大きく変化していると感じています。実際、県内でも救急指定を解除したり、産科が廃止されたりと、身近な地域でも医療環境がどんどん悪くなっています。当市にとっても「人にやさしいまち美濃加茂」を実践していくためには、この医療問題は避けられない問題です。市としても健康行政は、引き続き重要施策と考えていますので、今後ともご尽力よろしくお願いします。

もう大丈夫であると判断した時には、それ以降は、紹介していただいた「かかりつけ医」で診てもらうようになります。そうした連携により患者さんも時間の節約になり、きめ細やかな診療が可能になります。